

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮北中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や文法等、基本的な計算などの反復・習熟と、週に2回、朝に学習時間をとり、生徒自身の課題となる部分についての補充学習を来年度も継続して行い、さらに基礎的・基本的な学習の定着を図る。
思考・判断・表現	次年度も生徒が振り返りを記入したり、自身の考えたことやその過程を話したり、文章にししたりする学習活動を多く取り入れていく。国語では、説明文の単元で接続詞をふまえて文章の構成を理解させる活動を行う。また、作文の単元では、説明文の構成を意識させて意見文を書く活動を行う。理科では、文章での説明や自分の考えを発表させるなど、表現する課題に取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	次年度も全ての授業において課題を設定し、解決の見通しをもたせ、解決する場を設定することを継続する。また、自己の振り返りを行い、課題となる部分は何か、そのために取り組む学習は何かを考えさせることも引き続き取り組んでいく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の国語・数学・英語の「知識・技能」において全国平均+2ポイント及び市平均を上回る。	⇒ 「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や文法等、基本的な計算などの反復・習熟を行う。週に2回、朝に学習時間をとり、生徒自身の課題となる部分についての補充学習を行う。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査及び市学力状況調査の国語・数学・英語の「思考・判断・表現」において全国平均+2ポイント及び市平均を上回る。	⇒ 生徒が作品・レポート等に取り組む際、teamsの課題機能等を活用する。その際、生徒は学習や思考の過程に関する振り返りを記入する。それに対するフィードバック等を必要に応じて行い、評価する。また、各教科にて自身の考えたことやその過程を話したり、文章にししたりする学習活動を多く取り入れる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 全ての授業において課題を設定し、解決の見通しをもたせ、解決する場を設定する。また、自己の振り返りを行い、課題となる部分は何か、そのために取り組む学習は何かを考えさせる。

次年度に向けて
(3月)

目標・策の設定
(4月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」において市平均正答率を上回った。(英語は調査結果なし)「スタディサプリ」等を活用し、週に2回、朝に学習時間をとり、生徒自身が自らの課題となる部分についての補充学習を行うことができた。	A
思考・判断・表現	R5年度市学力状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」においておおむね市平均正答率を上回ったが、2年生の国語は目標を達成できなかった。生徒が作品・レポート等に取り組む際、思考の過程に関する振り返りを記入する活動を各教科で取り入れた。また、自身の考えたことやその過程を話したり、書いたりする学習活動を取り入れることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、目標を達成できた。全ての授業において課題を設定し、解決の見通しをもたせ、解決する場を設定することができた。また、自己の振り返りを行い、課題となる部分は何か、そのために取り組む学習は何かを考えさせることも行えた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	各教科ともに知識・技能に関しては、全国平均よりも高い結果となった。国語に関しては、漢字や語句・言葉の意味に関する問題の正答率がやや低かった。数学に関しては、グラフの問題に1題のみ全国平均を下回ったものがあった。英語はすべて全国平均を上回る結果であった。各教科で、1、2年次に基礎・基本的な課題に繰り返し取り組ませて、向上をはかる。
思考・判断・表現	各教科ともに思考・判断・表現の問題の正答率は、全国平均を上回っていた。国語に関しては、知識・技能に比べて全国平均よりも正答率が大きく上回る結果となった。数学に関しては、図形の問題で全国平均は上回っていたものの、正答率が50%を超えていないものがあった。授業で扱う課題を精選し、力を伸ばしていきたい。英語に関しては、「読むこと」について要約文を作って伝える活動を取り入れる。「書くこと」について自分の意見を書く活動を取り入れながら、文章展開の定型に慣れるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	ICT機器が学習に役立つと答えた生徒が「ほぼ当てはまる」も加えて9割以上いた。しかし、ICT機器の有効性を認めておきながら、授業以外で学習に利用する生徒がほとんどいない。PCを使う課題を授業や家庭学習で課していきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	R5年度市学習状況調査の各教科「知識・技能」「思考・判断・表現」において市平均正答率を上回った。国語は慣用語の意味を理解して文章の中で使うこと、数学は少数の減法の計算をすること、社会は時代を象徴する文化財を理解していること、理科は無脊椎動物の種類や地層の区別について特によい結果であった。
中2	R5年度市学習状況調査の「知識・技能」について目標を達成し、数学と社会の「思考・判断・表現」について目標を達成した。数学は一次関数の式や垂線の作図の方法、社会は江戸時代の幕政の改革について理解することが特に良い結果であった。国語は文章と図形を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること、理科は鏡に映る像の現象や気象の変化を思考し判断することの結果が目標に届かなかった。
中3	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の2つの項目で非常に良い結果であった。主体的な学びの実現を来年度以降も学校全体で目標として取り組みを続けていきたい。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし